

ノハナショウブ

Iris ensata var. *spontanea*

アヤメ科



ノハナショウブ

名前の由来

野生の花菖蒲（ハナショウブ）のことで、花菖蒲はアヤメを指す昔の名前である。ヤマショウブ、ドンドバナなどの別名がある。漢字名：野花菖蒲

形態的特徴

高さ40～80cm。葉は根元からのびて細長く（剣状）、葉の中央を縦に走る脈（中肋・中脈）が太く明確。花は赤紫色で径10cm内外、花の中心から伸びて立ち上がる3枚の内花被片がある。外花被片は3枚で大きく、外に向かって垂れ下がり基部は黄色い。

類似種と見分け方

カキツバタ、アヤメ、ヒオウギアヤメ。

ノハナショウブの花は赤紫色で、カキツバタ、アヤメ、ヒオウギアヤメ等の他のアヤメ類は青紫色なので、花の色で

見分けることができる。またノハナショウブの葉は中央に太く明確な脈（中肋・中脈）が縦走するのが特徴で、他の種ではあまり目立たない。



ノハナショウブ



類似種のアヤメ



類似種のヒオウギアヤメ



類似種のカキツバタ

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期					■							

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

湿地や少し湿った草地に生育する。

分布：国外分布は、朝鮮、中国東北部、シベリア東部。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、河川下流域の平地を中心に全道。

十勝地方では、湿地や少し湿った草地、海岸などで見られる。



ノハナショウブ。湿った草地などに生育

生活史

開花時期：7月中旬～8月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■岩手県、三重県、鹿児島県では天然記念物に指定された群落がある。

■もともと強壮な草であるが、牛馬にとっては毒草となるため、牧草地では食べ残され、大群落となるときもある。

■*Iris ensata*の学名を持つ基本種はハナショウブであるが、これはノハナショウブから改良された園芸品種であり、観賞用に栽培される。

■ハナショウブは江戸時代中期頃から園芸化された日本独自の園芸植物で、花形や色も様々で500種にも及ぶ。



草地に広がるノハナショウブ。牛馬にとっては毒草となる



ノハナショウブ

配慮事項

生育している環境全体が重要である。

魚類

底生動物

両生虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葎原樹林) 鳥類

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」 牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅰ」 佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「新版 北海道の花(増補版)」 鮫島惇一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

「図説 花と樹の大事典」 木村陽二郎・植物文化研究会・雅麗 柏書房 1996

「日本野生植物館」 奥田重俊 小学館 1997